

# 半導体漫遊記

124

## 湯之上隆

「ソニーから東芝まで事件な企業の決算書を読む」という帯につられて買った本、公認会計士の前川修満著『会計士は見た!』(文藝春秋)には驚かされた。前川氏は「ソニーは最早エレクトロニクス企業ではない」と結論しているからだ。では一体、ソニーは何の会社かと言え

### 公認会計士が見たソニー

# 実態は金融業

ば、その実態は金融業だという。

ソニーの有価証券報告書には、非金融と金融を分離した決算が掲載されている。非金融には、皆さんが本業だと思っ

ているエレクトロニクス、ゲーム、音楽、映画などが、ソニーの売上高は、右肩上がりの成長で2014年に1兆円超となった。しかし、乱高下が4年連続で2014年には6兆8千億円の規模があり、金融がそれに追いつくのは難しいよう

を打って2014年に7兆円超に回復した。一方、ホ等のエレクトロニクスの利益が不安定なことが、2009年の水準にまで回復した。2014年には384億円にまで低下し、2012年には3億2千4百万円にまで低下した。

2014年に3000億円超にまで回復したが、2009年の水準には大きく及ばない。一方、金融の営業キャッシュフローは、2005年以降、順調に増加し、2010年には非金融を追い越して、

「ソニーから東芝まで事件な企業の決算書を読む」という帯につられて買った本、公認会計士の前川修満著『会計士は見た!』(文藝春秋)には驚かされた。前川氏は「ソニーは最早エレクトロニクス企業ではない」と結論しているからだ。では一体、ソニーは何の会社かと言え

に思われる。ところが、営業利益を見ると事情が一変する(図1-2)。2000年代前半までは非金融の営業利益が大きく補っていたのである。営業キャッシュフローを見てみると、非金融はブレが大きく、2009年以降、5702億円から大きく減少

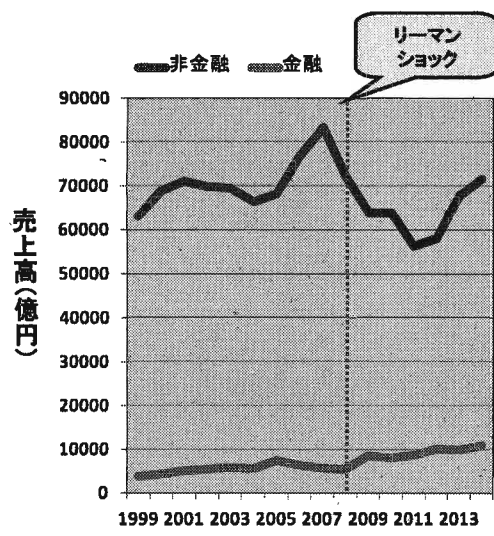


図1-1 売上高

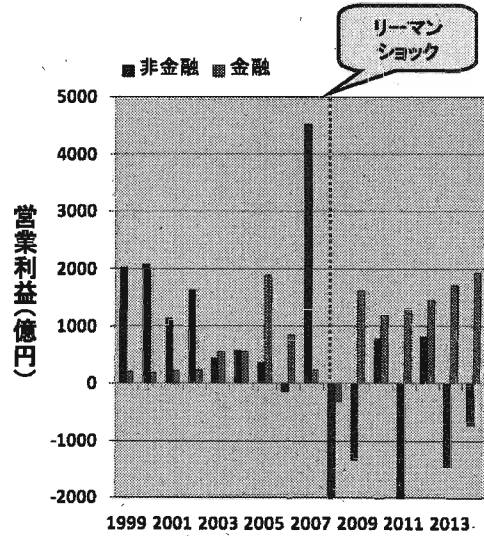


図1-2 営業利益

図1 ソニーの金融と非金融の売上高および営業利益

出所:ソニーのIRデータを基に筆者作成

2014年には4597億円にまで達した。投資キャッシュフローと金融の間に大きな差があった。つまり、営業利益においては、非金融(特にエレクトロニクス)の不調を金融が補っているのである。

一方、金融では2009年以降、1000億円の営業キャッシュフローは、2005年以降、順調に増加し、2010年には非金融を追い越して、

最後に、総資産。非金融と金融の差は決定的である。非金融の総資産は6兆円前後を推移しているが、金融の総資産はほぼ直線的に増大し、2014年には10兆円を超えてしまった。

まとめると、金融の売上高規模は非金融の1/7しかなく、安定的に利益を計上し、その額は2000億円に接近、今後も成長が見込まれる。そして、驚くことに、資金調達規模、投資の規模、総資産までもが、金融が非金融を凌駕していたのである。

実際に金融業を営んでいるのは、「ソニーフィナンシャルホールディングス」とその傘下の「ソニー銀行」「ソニー生命」「ソニー損保」である。現在、東京証券取引所におけるソニーの分類は「電気機器」であるが、近い将来、「金融」に変わるかもしれない。(微細加工研究所・所長)